

大会名 Competition	第46回全国高等学校バスケットボール 選抜優勝大会秋田県予選会男子決勝
NO. M-2	Year Month Day Time 2015 年 11 月 1 日 14 : 18
場所 Place	横手市増田体育館



秋田県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

主審:Referee 小野寺 浩 (秋田)
副審:1stUmpire 水木 順仁 (秋田)
副審:2ndUmpire 中道 凌平 (秋田)
テーブルオフィシャル:Table officials
増田高校男子バスケットボール部

チームA		チームB
能代工		秋田工
102		55
○		●
	28 1st 11 18 2nd 20 24 3rd 12 32 4th 12 OT	

No.	pi-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	pi-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	盛 實 海 翔	CAP	10	0	5	0	2	4	×	森 川 哲 平	CAP	12	0	6	0	2
5	/	中 村 碧 杜		12	0	6	0	2	5	×	八 柳 優 星		4	0	2	0	0
6	×	斉 藤 大 輔		26	0	11	4	2	6	×	柴 田 滉 太 朗		3	0	1	1	0
7	×	小 室 望 海		11	2	2	1	3	7	×	諏 訪 裕 亮		13	3	0	4	0
8	×	大 高 祐 哉		6	0	3	0	1	8	×	渡 部 宏 斗		15	0	6	3	2
9	/	高 畑 陸		13	1	5	0	4	9	/	伊 東 和 輝		8	0	4	0	0
10	×	金 久 保 翔		3	1	0	0	1	10		三 浦 夢 城		-	-	-	-	-
11	/	柴 田 一 真		2	0	1	0	0	11		佐 藤 凧 斗		-	-	-	-	-
12	/	富 樫 優 汰		3	1	0	0	0	12		石 川 竣 輝		-	-	-	-	-
13	/	植 村 太 一		14	2	4	0	0	13		佐 藤 大 輝		-	-	-	-	-
14	/	山 田 柊 人		0	0	0	0	1	14	/	広 川 汰 輝		0	0	0	0	1
15	/	児 玉 海 渡		2	0	1	0	0	15	/	片 村 俊 介		0	0	0	0	0
16		山 田 魁 都		-	-	-	-	-	16		宮 野 良		-	-	-	-	-
17		熊 谷 弥 高		-	-	-	-	-	17		田 中 北 斗		-	-	-	-	-
18		長 濱 宏 治 郎		-	-	-	-	-	18		千 國 秀		-	-	-	-	-
19		石 田 淳		-	-	-	-	-	19		高 杉 暁 登		-	-	-	-	-
20		守 屋 健 次 郎		-	-	-	-	-	20		新 保 優 弥 太		-	-	-	-	-
21		守 屋 壮 次 郎		-	-	-	-	-	21		伊 藤 亮 太 美		-	-	-	-	-
コーチ		柴 田 直 宏							コーチ		片 桐 博 太						
Aコーチ		杉 沢 政							Aコーチ		柏 木 寛 太						
合 計				102	7	38	5	16	合 計				55	3	19	8	5

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* インドシュート 2P:2P* インドシュート FT:フリースロー F:ファウル

男子決勝は、46年連続46回目の優勝を狙う能代工と、初優勝を目指す秋田工の対戦となった。両チームともマンツーマン・ディフェンスで始まる。開始5分間は両チームとも攻めあぐね得点が伸びない。能代工はディフェンスのプレッシャーを強め、#6 斉藤が4連続得点を決めて18-6とリードを広げたところで秋田工はタイムアウト。その後、秋田工は#7 諏訪が3Pシュートを決めて10点差まで詰めるものの、能代工の#6 斉藤がゴール下のシュートを確実に沈め、28-11と能代工のリードで第一ピリオドを終える。

第二ピリオド、秋田工は#4 森川や#8 渡部のポストプレーや合わせのプレーで加点し30-22と点差を縮める。一方の能代工は3Pシュートが決まらず苦しい展開が続く。その後、残り4分を切ったところで能代工はようやく#9 高畑の3Pと#6 斉藤の速攻が決まり39-25と差が開いたところで秋田工はたまたまタイムアウト。能代工はディフェンスを3-2ゾーンに切り替えると秋田工はターンオーバーが続き得点が止まる。能代工は得意の速い展開に持ち込み、46-31と能代工のリードで前半が終了した。

第三ピリオド、点差を縮めたい秋田工は3-2ゾーンに切り替えるが、能代工のディフェンスを崩せず、開始3分間はフリースローの1点のみと苦しい展開が続く。逆に能代工はディフェンス・リバウンドからの速攻が立て続けに決まり、残り5分を切ったところで60-32と点差を広げる。秋田工も#9 伊東のゴール下や#8 渡部のミドルシュートで加点するも、能代工は#13 植村がすかさず速攻や3Pシュートで入れ返し主導権を渡さない。リバウンドを支配し速い展開に持ち込んだ能代工が70-43とリードを広げて第三ピリオドを終えた。

最終ピリオド、能代工は#7 小室が3Pと速攻を決めると、秋田工も#9 伊東の合わせや#8 諏訪のタックシュートが決まりこちらも譲らない。残り6分、能代工の速攻や3Pシュートで80-47となったところで秋田工はタイムアウト。その後も能代工はディフェンスのプレッシャーを強め、#4 盛實の速攻や#8 大高の3Pシュートが決まり差を広げる。秋田工も#7 諏訪の3Pシュートで意地を見せるが、リバウンドからの速い展開で能代工が連続得点を決めて秋田工を突き放した。102-55で能代工が46年連続46回目の優勝を決めた。

文責 【 打矢 泰之 】

得点推移

